



月刊 発行
薬事日報社
 東京本社 〒101-8648
 東京都千代田区神田和泉町1
 ☎ (03) 3862-2141
 ㈫ (03) 5821-8757
 大阪支社 〒541-0045
 大阪市中央区道修町2-1-10
 ☎ (06) 6203-4191
 ㈫ (06) 6233-3681
 購読料 半年19,764円
 (税込) 1年36,234円

きょうの紙面

- 日薬が対応方針
 自宅療養急増で…②
 初のパンチャー企業誕生
 東薬大…③
 健食受託市場規模が
 拡大見込み…⑥
 非医薬製品順次投入へ
 大日本住友…⑦

本号8ページ

モデル・フォーミュラリ開示へ

各地域で策定時の原案に

日本フォーミュラリ学会は17日、会員限定で約20領域のモデル・フォーミュラリを開示する。国内外のエビデンスに基づき、カルシウム拮抗薬、HMG・CoA還元酵素阻害剤など各領域の推奨薬をまとめたもの。標準的な薬物療法の推進に向けて、全国各地で地域フォーミュラリを策定する時の原案やたたき台として活用してもらいたい考え。このほかモデル・フォーミュラリには今年度内に、安定供給能力の評価結果をもとに、推奨する製薬企業

日本フォーミュラリ学会

同学会理事長の今井博久氏(東京大学大学院医学系研究科地域医薬システム学講座特任教授)を中心とする研究班が実施した2020年度厚生労働科学特別研究事業の成果を引き継ぎ、学会の中に設けたモデル・フォーミュラリ委員会が約



今井氏

20領域を作成した。今年6月には先行して、アンギオテンシンII受容体拮抗薬(ARB)のモデル・フォーミュラリを同学会のウェブサイトで公開。エビデンスに基づき、第1推奨薬をテルミサルタン、オルメサルタン、カンデサルタ

ン、第2推奨薬をアジルサルタンに設定している。ARB以外のモデル・フォーミュラリは、会員が閲覧できる限定コンテンツとして17日に開示する。その領域は、カルシウム拮抗薬、α-グルコシダーゼ阻害薬、インフルエンザ感染治療薬、グリニド系糖尿病薬、HMG・CoA還元酵素阻害剤、経口酸分泌抑制剤など。今後も領域を増やす計画だ。

今井氏は「各地でフォーミュラリの運用を開始したいと思っても、ゼロから策定するのは大変な作業になる。そこで、モデルとなるフォーミュラリを学会で作成し、それを各地域で導入する場合の原案、たたき台として活用してもらいたいと考えた」と言及。

食生活が異なるなど各地の環境や医師のニーズに応じて「文献の情報を追加し

たり、推奨薬を変更したりして臨機応変に各地で策定してもらいたい」と語る。

このほか、モデル・フォーミュラリには、今井氏の研究班で製薬企業の安定供給能力を評価した結果を今年度内に追加する考えだ。

研究班は、多発する自主回収を受けて製薬企業に質問票を送付し、安定供給能力や品質を評価した。質問として、▽原薬調達ルートをどの程度幅広く確保しているのか▽原薬調達先等への調査を自ら実施しているのか▽自社工場で製造しているのか▽倉庫や物流センターを各地に分散して設置しているのか▽6カ月分以上の在庫を確保しているのか―などを提示し、各社から回答を得た。

今井氏は「モデル・フォーミュラリの中から実際に、どこの製薬会社の薬を採用すれば良いのかが分かるようにしたい。この領

域のこの推奨薬の安定供給については、この4社からの製薬企業がしっかり取り組んでいるなどの情報を盛り込みたい」と話す。

同学会は、地域フォーミュラリを学術的に研究し正しく普及させる目的で、6月に発足した。モデル・フォーミュラリ作成、研修会や学会の開催を手がける。10月23日には学会設立記念シンポジウムを開く。

今井氏は、日本で進む

フォーミュラリへの懸念と

して「研究班の調査で、全

国で122病院がフォー

ミュラリを策定しているこ

とが分かったが、その約9

割が地域と共有していな

かった。これでは、地域全

体で標準的な薬物治療を共

有し、推進しようという

フォーミュラリの理念とは

異なるものになってしま

う」と指摘。「正しい情報

を発信し誤解を解いていき

たい」としている。